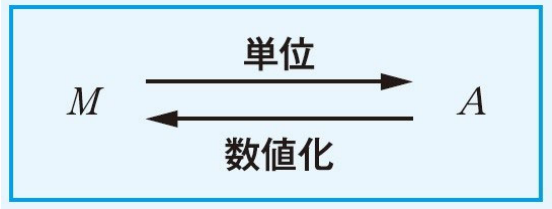



該当箇所	誤	正(第2刷にて修正済)
P.8 上から10行目	ローマ人の格言88	ローマ人の名言88
P.49 上から7つ目の青い丸の1行目	数字	数学
P.58 下から8行目	$R > 0$	$R > 0$ ※> 0をRの下付きにする
P.60 上から9行目	F(1_M')をみたすことである。	1_M'をみたすことである。
P.60 上から9行目	(M')_M	OM
P.62 下から2行目	1_F(X)	1_F(X) ※F(X)を1の下付きにする
P.74 下から9行目の式の左辺	$h_A(a)$	$h_A(f)(a)$
P.75 下から5行目の式	$Bh(\beta) = \beta \circ f$	$Bh(f)(\beta) = \beta \circ f$
P.85 上から4行目	そのような量系Mを	数系Aに対して、量系MでAからHomQua(M,M)への(加法と乗法両方に関しての)準同型が存在するようなものを
P.86 上から12行目~13行目	そのような量系MはA上の量系と呼ばれる。ここで、準同型	数系Aに対して、量系MでAからHomQua(M,M)への(加法と乗法両方に関しての)準同型が存在するようなものをA上の量系と呼ぶ。ここで、自己準同型
P.91 上から3つめの青い丸の下の図		
P.91 一番下の図の左側M"とAの間の左矢印脇	t^{-1}_M'	t^{-1}_M''
P.91 一番下の図の左側M"とAの間の右矢印脇	t_M	t_M''
P.93 本文下から5行目	Z-Mod	Z-Mod ※dも太字にする
P.93 脚注18	Hom_Qua	Hom_A-Qua
P.94 上から3行目	K-Mod	K-Mod ※dも太字にする
P.105 上から4行目	不動点定理	定理3.11
P.105 下から5行目	定義	定理
P.112 一番上の行	1_F(X)	1_F(X) ※F(X)を1の下付きにする
P.124 上から10行目	よって場	よって
P.127 上から6行目	間の関手を	間の自然変換を
P.128 上から4行目と6行目の式の=の左側	$\circ x$	(x)
P.132 下から7行目	$\text{Hom}_C(F(X); F(Y))$	$\text{Hom}_D(F(X); F(Y))$
P.132 下から6行目(定義4.6の中)	忠実 (full)、全射であるとき充満 (faithful)	忠実 (faithful)、全射であるとき充満 (full)
P.134 上から5行目	F(A)への自然変換全体	Fへの自然変換全体
P.140 右側の図、一番左側のM"とAの間の左矢印脇	t^{-1}_M'	t^{-1}_M''
P.140 右側の図、一番左側のM"とAの間の右矢印脇	t_M	t_M''
P.145 下から8行目	C上の	C上の ※Cを二重フォントで印刷
P.154 下から3行目	すなわち対象	すなわち対象X
P.155 一番上の図のXからBへ向かう矢印	x_A	x_B

P.159 上から4行目	x_B への射	B への射
P.163 上にある図の右側 $A \times Y$ から Y へ向かう矢印	p_X	p_Y
P.164 上にある図	差し替え	
P.164 下から9行目	1_A を	$1_{A \times f}$ を
P.173 下から5行目 AからCの矢印上	t	f
P.178 上から4行目	圏2は有向グラフの理念の圏だな。	削除
P.178 上から11行目	$Y' \rightarrow X'$	$Y' \leftarrow X'$
P.178 真ん中下にある図の左下	X	X'
P.178 下から4行目	圏2の x 以外の射は	圏2の射は、あとは
P.183 定義5.8の下 4行目	対象	対象 X
P.184 上から7行目, 8行目	$\text{Fun}(J, D)$	$\text{Fun}(J, C)$
P.184 一番下の行	$\text{Fun}(J, D)$	$\text{Fun}(J, C)$
P.184 一番下の行 $\leftarrow 1$ の上	D	D ※ D は立体フォントで印刷
P.188 下から9行目	$D \rightarrow \Delta$	$\Delta \rightarrow D$
P.188 下から8行目	$\Delta \rightarrow D$	$D \rightarrow \Delta$
P.188 下から6行目	型 J	型 J ※ J は花文字フォントで印刷
P.194 上から3行目	$X \rightarrow Z^{\wedge} Y$	$Y \rightarrow Z^{\wedge} X$
P.196 定義6.2の2行目	終対象	終対象 1
P.198 下から6行目	h に対し	h に対し $h_A = h \circ p_A$ (ただし p_A は $A \times 1$ から A への射影)
P.198 下から5行目	$h \sim$	$h \sim_A$
P.199 真ん中にある式の右辺の最後の行列第2成分	α	a
P.199 下から9行目 $f \circ$ のあとの行列第2成分	α	a
P.209 下から5行目	B の恒等射	m が全射、すなわち右簡約である場合には、 B の恒等射
P.210 上から1行目~2行目	m が全射、すなわち右簡約可能である場合には、	m は単射、すなわち左簡約可能だったので
P.214 上から3行目	漸化式 u_{n+1}	漸化式 u_{n+1} ※ $n+1$ まとめて u の下付きにする
P.215 下から7行目	$\langle N, S, z \rangle$	$\langle N, s, z \rangle$
P.215 右側の図	差し替え	
P.221 下から8行目	$1_{Y^{\wedge} A}$	$1_{Y^{\wedge} A}$ ※ $Y^{\wedge} A$ をまとめて 1 の下付きにする

P.221	下から3行目	ε_{Y^A}	ε_{Y^A} ※ Y^A をまとめて ε の下付きにする
P.222	上から3行目と上から4行目	ε_{Y^A}	ε_{Y^A} ※ Y^A をまとめて ε の下付きにする
P.224	一番下の青い四角の中2行目と3行目	$H(t)_X = H(t_X)$ $tH_X = t_H(X)$	$(Ht)_X = H(t_X)$ $(tH)_X = t_H(X)$
P.227	下から7行目		4.2 4.4
P.228	上から3行目と10行目	$\text{Hom}_D(-, G(-))$	$\text{Hom}_C(-, G(-))$
P.228	一番下の行	反時計回り	時計回り
P.229	下から5行目	ϕ_Y	ε_Y
P.241	図式 (9.5) 一番右側のTTからTへ向かう矢印	u	μ
P.241	図式 (9.6) 差し替え		
P.244	下から2行目 X_T から Y_T へ向かう矢印の上	$(u_Y \circ f)_T$	$(u_Y \circ f)_T$ ※ T は $()$ の下付きにする
P.244	一番下の行	μ_Y	μ_Y ※ Y は μ の下付きにする
P.245	上から6行目 FG から id への矢印の上	u	v
P.245	上から11行目	$\bigcirc \mu_T$	$\bigcirc \mu_Y$
P.275	3. の書名	ローマ人の格言88	ローマ人の名言88
P.277	上から9行目	充満(faithful)	充満(full)
P.278	下から12行目	忠実(full)	忠実(faithful)